

栃事研会報



第94号 平成31年3月8日発行
栃木県公立小中学校事務職員研究協議会
編集発行人 廣田 則子

<主な内容>

- 副会長あいさつ、ステージⅠ研修 …… P 1
 - 研究大会 …… P 2
 - 受賞者あいさつ、お知らせ …… P 3
 - 栃事研セミナー、ステージⅢ研修 …… P 4
- 栃事研HP <http://tochijiken.sakura.ne.jp/nc3>

副会長あいさつ

栃事研副会長 君 久美子

私の所属する那須地区の各市町では、校務支援や業務改善へ向けて教育委員会と共同実施組織との協働が始まっています。那須町では各校の予備監査の立ち合い者を管理職ではなく、認定権をもつ統括事務長が務め、大田原市では『2019年度版 教員の「働き方改革」プラン(案)』について市教委学校教育課課長・管理主事・市校長会会長・市事研会長で熟議が行われ、「共同学校事務室の設置導入」が項目に挙げられました。目的は、事務処理の適正と円滑な執行で全体の負担軽減を図ることとされています。こうした動きは、法改正後、那須地区だけでなく県全体に広がってきています。

さて、今年度栃事研では、5月の総会以降、研究・研修・調査活動やステージ別研修、研究大会、セミナー、関係団体・諸機関との懇談会など様々な場面で、研究主題「子どもの学びの充実を目指す学校事務」の実現を目指し、活動を進めてきました。特に、12月の研究大会では、「実現しよう！子どもの学びの充実を目指す学校事務を」をテーマに、地域とともにある学校づくりに参画し、事務職員として果たすべき役割、共同実施を含めた学校事務の可能性について議論を深めました。地域とともにある学校、地域協働を進めていくには、事務職員の力量形成はもとより共同実施の質、学校事務の質の向上が不可欠であることなど多くのご示唆をいただきました。

学校事務を取り巻く状況は絶えず変化しています。変化を確実に活動に結び付け、子どもたちの学びの充実を図ることが大切です。学校の働き方改革や業務改善の流れは、そのための改革でもあります。栃事研と各支部がこれまで以上に結びつき、連携を深めていくことが大切だと感じています。今後とも皆様と共に実りある活動を推進して参りたいと思いますので、ご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ステージⅠ（基本的力量形成期）研修 自己マネジメント 平成30年10月30日

学校生協会館において、採用1～2年目の28名を対象とした自己マネジメント研修を行いました。研修部員が講師・コーディネーターとなり、講義・演習を行いました。

今回の事前課題は、自分の2日分の仕事内容や時間を記入し、自分の仕事を振り返ることでした。そこから、課題や気づきをグループで共有しました。さらに、講義では「自己を知る」必要性や、自己マネジメントにおける4つのポイントを学び、共有した課題や各自の課題に対する解決策をグループで考えました。



研修を通して、参加者からは「自分の課題解決の方法をグループの人と一緒に考えることができた」「先輩の話が具体的で参考になった」「一人で悩まずもっと周りを頼ろうと思った」「悩んでいるのは自分だけでなく安心した」などという感想があり、日々の仕事の参考になったり、不安を解消する場になったりしたようです。



研修の最後に、各自の課題に対して「適切な予算執行を行うために、予算管理状況を見える化し学校全体で把握したい」「給与関係等の書類回収・処理をスムーズに行うために、先生方とのしっかりした関係性を築けるようになりたい」など目標の設定をしました。そして、4か月後を目安に具体的な取組について考え、その実行宣言をしました。受講者はこれから、目標を達成するために考え、悩みながら実践に取り組みます。近隣の先輩方には温かく見守り、ご支援くださるようお願いいたします。

教育会館において、平成30年度栃木県公立小中学校学校事務研究大会が開催されました。

サブテーマを「～ 高めよう学校事務！ 伸ばそう専門性！ 地域とともにある学校の協働体制づくり ～」とし、事務職員が発揮する専門性や学校事務や共同実施の質の向上について考え、各学校における実践・行動に結び付けていくことをねらいとしました。



開会式では、栃木県教育長、県義務教育振興協議会会長、県中学校長会副会長、県連合教育会会長からご祝辞をいただきました。引き続き、平成30年度「教育功労者」並びに「とちぎ教育賞」「全事研功労者表彰」を受賞された8名の方の表彰式が行われました。

地区発表では、河内地区宇都宮支部が、「未来につなぐ人材育成と地域学校園経営を支援する学校事務」～Let's keep the light！ チームで創る宮っ子の未来～をテーマに発表を行いました。

前半は、宇都宮市の学校事務職員の現状、宇都宮市立小中学校学校事務職員研究会の概要とこれまでの経緯、中学校を核とした地域学校園制度、地域学校園事務室の効率的な運営と資質の向上など、宇都宮市の人材育成を目的とした学校事務指導員制度についての報告を頂きました。

後半は、会場全体を交えたミニシンポジウムが行われました。事前配布資料の二色の資料を使い、他市町の取り組み状況について質問したり、意見を聞いたり、これからどのような事務職員を目指すのか、子どもたちのために何ができるかを、会場全体で考えました。



午後の部は、全体研究会Ⅰとして基調講演を、全体研究会Ⅱとしてシンポジウムを行いました。

全体研究会Ⅰでは、千葉大学理事・事務局長 松浦晃幸 氏より「地域とともにある学校づくりとコミュニティ・スクールの推進について」と題し、学校と地域との連携の必要性について、五つの視点から講話をいただきました。また、法的根拠に基づいて設置されたコミュニティ・スクールの運営の在り方や、導入後の効果について示していただきました。「事務職員が財務担当者として参加するのは当然であり、財務という観点で参画することで事務職員の役割が高まるのではないか」とお話をいただきました。

続いて、全体研究会Ⅱシンポジウムでは千葉大学理事・事務局長 松浦晃幸 氏、宇都宮市立清原中央小学校校長 生田 敦 氏、宇都宮市立旭中学校事務長 檜山幸子 氏、那須町立学びの森小学校主任 池田安孝 氏をシンポジストに迎え、栃事研研究部長 倉澤由佳がコーディネーターを務めました。「学校の協働体制づくりと経営参画について」「学校と地域、学校事務の可能性」の二つを討議の柱に据え、それぞれの立場での実践経験から意見交換が行われました。松浦先生からは、「一流になるためには一流を知らなければいけない。経験を積むには先輩に続いて学んでいくのが良い。栃木県は良い環境にある。」生田先生からは「経営スタッフの一員としての自覚をもってアプローチしてほしい。想いは伝わる。」とのご意見をいただきました。



受賞おめでとうございます

◇教育功労者表彰◇

宇都宮市立一条中学校 事務長
樋口 良広 様

このたび栃木県教育功労者表彰をいただくことができ、大変恐縮している次第です。

ご理解とご支援をいただきました先生方、仲間、そして、諸先輩方のご指導のお陰と心から感謝しております。

◇とちぎ教育賞◇

日光市立東中学校 事務長
倉澤 由佳 様

受賞に際し、驚きとともに、これまで支えてくださった皆様のおかげと感謝しております。これからも精一杯自分にできることを務めていきたいと思っておりますのでご指導のほど、よろしく願いたします。

◇とちぎ教育賞◇

矢板市立矢板中学校 事務長
木島 幸江 様

身に余る賞をいただき恐縮するばかりです。栃事研をはじめとする多くの方々のご尽力により、事務職員が認められての受賞と受け止め、感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともどうぞよろしく願いたします。

◇とちぎ教育賞◇

佐野市立城東中学校 事務長
猿橋 清美 様

この受賞は、私自身ではなく、「チーム佐事研」の受賞です。私は佐野市事務研の会長として務めました。一つずつ夢を形に変えられたのも、チームの力があってこそ。「守り」<「攻め」の姿勢で頑張ります。

◇とちぎ教育賞◇

足利市立山辺中学校 事務長
長谷川 順子 様

『「連携」と「協働」により教育活動を推進する学校事務』今年度より掲げた足事研の研究テーマです。今回の受賞は、個人ではなく足利の事務職員の活動を認めていただいたと受け止めています。

◇全事研功労者表彰◇

宇都宮市立旭中学校 事務長
檜山 幸子 様

昨夏の全事研総会にて、栄えある功労者として表彰していただきました。この栄誉は、私個人の力によるものではなく、栃事研はじめ皆様のご指導ご支援によるものと心より感謝しております。ありがとうございました。

◇全事研功労者表彰◇

下野市立南河内中学校
事務長 吉田 崇 様

全事研では全国研究大会や全事研セミナーの企画・運営などを担当し、その後は評議員をさせていただきました。今回は功労者表彰という思いもよらない賞をいただき大変恐縮しております。ありがとうございました。

◇全事研功労者表彰◇

那須町立黒田原小学校
事務長 菊地 徳明 様

このたび、栃木支部の推薦により功労者表彰をいただきました。理事（5年）や50周年記念誌編纂委員長（2年）として有意義な時間を過ごすことができました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。



◇ 文部科学大臣優秀教職員表彰 ◇

平成31年1月15日（火）、平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰式が東京大学安田講堂において行われました。この表彰は優れた成果を上げた教員を表彰することで、教員の意欲を高め、資質能力の向上に資することから、大学と高等専門学校を除いた全国の現職教育職員（校長等管理職を除く）を対象に、平成18年度から実施されています。今年度、栃事研会員の中からもお一人が受賞されました。

さくら市立上松山小学校 事務長 井上 茂夫 様

たくさんの方にお世話になりながら、自分にできることを考え、ただ誠実に最良の仕事を目指して取り組んできたところ、身に余る賞をいただくことができました。この機会を新たなスタートと捉えこれまでの経験を活かしながら、これからも学校や子どもたち、そして事務職員のために少しでもお役に立てるよう精一杯、取り組んでいきたいと思います。

栃事研からのお知らせ

栃事研研修会並びに総会 2019年 5月31日（金） 会場 宇都宮市文化会館
栃木県公立小中学校事務研究大会 2019年11月28日（木） 会場 宇都宮市文化会館

今年度の栃事研セミナーは、「学校と地域をつなぐ協働体制づくり」をテーマとし、支部推薦者及び希望者の39名が参加しました。午前中は、栃木県教育委員会事務局生涯学習課主幹 平野紀子 氏をお迎えし、栃



木県の地域連携に関する講話をいただきました。本県の地域連携の特色ある取り組みや地域連携により期待される効果など、データの裏付けを交えて分かりやすく説明してくださいました。また、地域とともにある学校づくりに向けて、事務職員の強みを生かしキーパーソンとなってほしいとお話してくださいました。

午後は、地域連携の一つの具体例として、宇都宮市立一条中学校事務長 樋口良広 氏、宇都宮市立陽南中学校事務長 廣瀬真美 氏の体験発表がありました。宇都宮市小規模特認校制度の立ち上げ時から現在に至るまでの学校と地域の特色ある取組やつながり、事務職員としての関わりについてお話しいただきました。両校の取組に、参加者からは「つぶやきから広がっていくこともある」「とにかくじっくり話してみることが重要だということが分かった」という感想がありました。その後、自校を振り返り、地域とのつながりの在り方や取り組んでいく上での課題、また、事務職員（リーダー）として何をしたいか、しないといけないかなど、経験年数別にグループ討議を行いました。受講者からは、「学んだことを学校や地域に発信していきたい。」「地域連携に携わるため、行動を起こしてみようと思った。」といった意欲的な意見が多くありました。それぞれの立場に応じた活発な意見交換が行われ、地域連携について改めて深く考えることのできる、有意義な一日となりました。



ステージⅢ（職務能力深化期）研修

平成31年1月29日

今回のステージⅢ研修は「カリキュラム・マネジメント」をテーマに、経験年数10～19年目の事務職員28名が参加しました。講師には今年度、教職員等中央研修（第1回事務職員研修）を受講された、佐野市立城東中学校事務長 猿橋 清美 氏、矢板市立片岡中学校事務長 和氣千津子 氏をお迎えしました。



午前の講義では、カリキュラム・マネジメントとは、学校教育目標を実現するために学習指導要領に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価して改善していくことで、それに対して教科横断的な視点や、PDCAサイクル、人的・物的資源等の活用の三つのアプローチがあることを学びました。その後、講師の実際の取組について話がありました。身近な実践事例から、受講者は事務職員の立場でもカリキュラム・マネジメントの視点

をもって教員や保護者と連携することで、経営参画ができるきっかけがもっとあることに気付いたようです。

午後は、「とちぎの研修プログラム」のケースを基にケース・スタディを行いました。事前課題のケースから問題点と改善策をまとめ、ワールドカフェ形式で意見交換を行い、更に解決策について検討し発表をしました。討議では様々な意見が出され、活発な議論が行われていました。「カリキュラム・マネジメント」といって難しそうだが、研修を受けて普段の業務の延長線上にあることが分かった」「教科や授業のことに対してもっと関心をもっていきたい」「教科横断的な視点や教員と事務職員など、職種を超えた視点が求められていることを改めて感じた」といった感想が多くありました。今後、ミドルリーダーとして、本研修で得たことを、実践として学校や共同実施で発揮していくことが期待されます。

